

電制機関紙

とらい

令和 3 年 年始号

発行
株式会社 電 制
広報室〒 067-0051
江別市工業町 8 番地の 13
TEL(011)380-2101
FAX(011)380-2103
<https://www.dencom.co.jp>

DENCOM

DENSEI COMMUNICATION Inc.

年 頭 の ご 挨拶

代表取締役 田上 寛



あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご高配を受け賜わり厚くお礼申し上げます。

また、社員の皆さんには日々の業務に追われて大変忙しい中、積極的に業務改革に取り組んでいただいたことに感謝いたします。

昨年は世界中が新型コロナウイルスに苦しめられた1年でした。年初めの経済評論家による2020年景気予測では、“好景気になる”として明るく始まった年だったのですが、瞬間に新型コロナウイルス感染症が世界へと拡がって、医療崩壊やその危機を抱える国が続出して状況が

一変しました。人間の能力をAIが超える“シンギュラリティー”を話題にし始めるほど技術の進歩に自信を持っていた現人類も、自然界の脅威“新型コロナウイルス”の前には為す術もなく、世界経済は急速に冷え込み、日本はオリンピックの延期も重なり経済の悪化に追い打ちを掛けました。

政治界でも国内外で大きな動きがありました。日本国内では、通算在任日数が憲政史上最長となった安倍内閣総理大臣が突然の辞任を発表し、菅政権が新たに発足いたしました。またアメリカでは、昨年11月に行われた大統領選挙でジョー・バイデン氏が僅差で勝利を収める結果となり、このまま1月20日の大統領就任式を迎えたとなると、日本のリーダー交代に続き、世界に多大な影響を与えるアメリカのリーダーも交代となります。2021年は、世界が大きく変わる1年になるかもしれません。

新しい年を迎えて、技術動向からの電制について一言お話しします。

ここ数年よく耳にするIoT、AI、5Gなどの技術用語はもう皆さんも聞き飽きたかと思いますが、これら技術のその先にある社会がどのようになっているかは気になるところです。その答えは、単にあらゆるモノがインターネットに繋がるIoT化社会になるのではなく、そこにAIと5Gの技術が加わることで、あらゆるモノ同士あるいはモノと人とが、人間同士のようにコミュニケーションする、新たなコミュニケーション社会となるのではないのでしょうか。これは正に、第4次産業革命が為し得る新たな社会の姿であり、その社会実現のカギを握るのは、“Communication Technology（コミュニケーションテクノロジー）”と云えるでしょう。

このような状況を踏まえ、今年の電制は活動キーワードを“Communication Technology”といたします。

電制の“Communication”に関わるこれまでの開発製品には、テレコ

ンやテレメータなどの情報通信機器や、声を失った方のためのコミュニケーションツールである電気式人工喉頭ユアトーンなどがありますが、キーワードである“Communication Technology”という視点で見ると何か気づくこともあるはずです。

今年は、一歩先を行くコミュニケーション製品の開発に力を注ぎ、“Communication Technologyの電制”として期待される企業を目指し、なお一層の努力をいたします。

最後になりますが、今年は新型コロナウイルス感染対策にも十分に配慮し、皆様とともに一日でも早く明るい話題を共有できるよう努め、そして“人に感動を与えるものづくりが電制の使命である”を胸に、社員一同全力で取り組んでまいります。

今一度、皆様方にさらなるご協力をお願いいたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

専務取締役 就任のご挨拶



専務取締役 須貝 保徳

昨年 9 月 1 日より、専務取締役に就任いたしました須貝です。これまで以上に責任のある立場を仰せつかることとなり、非常に身が引き締まる思いであります。

さて、昨年は年が明けて間もなく新型コロナウイルスの影響を受け始め、北海道は全国に先駆けて非常事態宣言が出されるなどし、生活環境

やビジネス環境など、様々な所に影響が出た 1 年でした。その一方で、コロナ禍の中、変化するビジネス環境に適応していくために、デジタル技術を駆使して新たな価値を創造するデジタルトランスフォーメーション（DX）技術がより一層注目を集めてもいます。弊社では、これまでも AI や IoT、AR などの技術に取り組みしておりましたが、今後さらに DX 技術を有効的に活用し、社内業務の効率化はもちろんのこと、お客様や社会のニーズに則した製品やサービスをいち早くご提供できるように、専務取締役として社内外のあらゆる所に目を向けながら、弊社従業員と一緒に私自身も日々努力し、成長してまいりたいと思います。引き続き皆様のご支援、ご協力、そしてご指導をよろしくお願い申し上げます。

間もなく納入へ

虻田発電所向け導水路点検ロボット

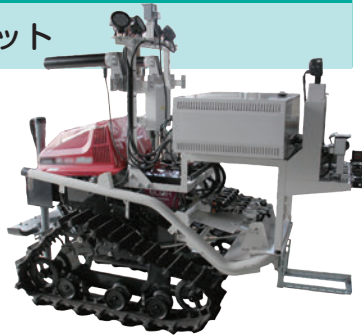
この度、ほくでんエコエナジー株式会社様より水力発電所導水路内点検ロボットの制御盤等を受注し、虻田発電所へ間もなく納入になります。

導水路点検ロボットは、有珠山噴火に備え、導水路内の崩落や火山性ガスの発生などが考えられる場合でも、導水路の外から安全に点検可能とすることを導入目的としています。

導水路内点検ロボットは、エンジンを動力とするロボット本体（クローラー機器）に制御盤等を搭載し、導水路外部のオペレータと導水路内部のロボット間を無線 LAN 通信することで、遠隔操作による導水路内部の走行を可能とした装置です。弊社は主に制御盤、オペレータ用制御コントローラ、計測制御用 PC 等の



【オペレータによる遠隔制御の様子】



設計・製作をいたしました。

アクセルやブレーキ、ハンドルなどは、電動シリンダーを介して操作されます。またロボットに搭載したネットワークカメラ、ガス検知器、各種センサからの画像や計測情報を基に、導水路外のオペレータが遠隔操作で導水路内の点検を行うことが可能です。弊社初の試みであるため、走行に関わる諸条件の設計・試験・調整は苦勞する点があった分、新しいノウハウを得ることができました。

本装置の開発にあたり、ほくでんエコエナジー株式会社様をはじめご協力いただいた点検ロボット本体等の設計、製作に関わる各社・皆様へ、この場を借りてお礼申し上げます。

取締役 営業部長 就任のご挨拶



取締役 営業部長 高橋 征司

このたび取締役営業部長に就任いたしました高橋です。このような大役を仰せつかるには、まことに微力でございますが、諸先輩方ならびに社員の皆様のご助言、ご協力を仰ぎ、業務に邁進していく所存です。

さて、わが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、未曾有の試練に直面しています。一時は国内外の需要が急速に喪失され、景況感が大きく低下いたしました。

ただこのような状況においても、お客様それぞれの顕在・潜在ニーズは必ず存在いたします。各ニーズは常に変化するもので、その動きを読む力が営業に求められます。どのような技術が、お客様にとってこれまで以上の改善ツールとなるのかを模

索し、それを形とすることでお客様と共に目標を達成できることが弊社の理想であると考えております。

この理想を実現するために、全力で職務に精勤する覚悟です。どうか今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

雨竜第 1 ダムへ納入 オリジナルビューアソフトのご紹介

弊社では ITV カメラと連動したオリジナルの画像監視装置向けビューアソフトをリリースしております。この度新たに「侵入検知機能」、「複数台モニタでの監視機能」を開発し、システムに搭載いたしました。

「侵入検知機能」はカメラ本体と連動し、カメラ映像内に任意のエリアを設定すると、そのエリア内に人や車が侵入したときにスピーカよりアラーム音を鳴動させる機能です。カメラ映像に複数のフィルタを適用して侵入物を検出し、サイズや動きの有無から侵入者と判別した場合、アラーム音を鳴動してユーザーへ通知します。雨や雪、木の揺れにより

生じる影等の環境ノイズにも強く、誤報が少ないことが特徴です。

「複数台モニタでの監視機能」は、全 3 台のモニタにユーザーのニーズに合わせて任意の表示グループ（単画面・4/9 分割画面）を設定し監視できる機能です。ビューアソフト上から簡単に設定変更でき、各現場での用途・運用に合わせた細かいカスタマイズが可能となっております。

最後に、本システムに限らず、今後もお客様のニーズを先読みし、本当に必要とされるシステムをご提案・ご提供できるよう精進してまいります。



【雨竜第 1 ダム内のモニタの様子】

DENCOM TOPICS

第 34 回ビジネス EXPO に出展しました

11 月 5 日、6 日にアクセスサッポロで開催された第 34 回ビジネス EXPO に出展いたしました。

今年度は「見える化」をテーマと

して、手作りの変電所模型と AR 技術を組み合わせた展示を行ったほか、弊社ブランド製品や保有技術を紹介いたしました。



【弊社展示ブースの様子】

ワイヤレス充電器・充電電池を自社開発

専用の充電器の上に置くだけで充電できる。そんな夢のような技術のワイヤレス充電器が、ここ数年で急速に普及しました。弊社も、ブランド製品をより便利に使用できるよう、オリジナルのワイヤレス充電器・充電電池を開発しています。

ワイヤレス充電は、IH コンロなどと同じく、「電磁誘導の原理」を応用した技術です。電気を流したコ

イルに発生した磁界に、もう一方のコイルを近づけることで、充電を開始するという仕組みです。より手軽に充電できるため、多くの製品に活用することができます。

現在は製品化に向けて、試作機の動作試験中です。高機能で使いやすい製品を 1 日でも早くお届けできるよう、今後も新技術への挑戦を続けてまいります。

編集後記

2021 年は様々な側面で社会が大きく変化しそうですね。今年もよろしくお願いいたします。（広報室）